

三郷地区の概要

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31220

1. 三郷地区の概要

西 本 陽 一

1. はじめに
2. 三郷（出田、広栗、鈴内）の概観
3. おわりに

1. はじめに

金沢大学文化人類学研究室では、2011 年度の文化人類学調査実習を石川県珠洲市若山地区の出田（すった）、広栗（ひろぐり）、鈴内（すずない）の3集落（あわせて「三郷」と呼ばれる）を対象に実施した。本報告書は、その調査実習に参加した学部3年生および教員が、おもにその際に得た資料にもとづき、それぞれ関心をもったテーマについて分担執筆した各章から構成されており、本研究室の調査実習報告書としては27冊目のものとなる¹。

2011 年度の調査対象とした3集落は、能登半島先端の内浦側にあり、若山川下流の左岸（出田）と右岸（広栗と鈴内）に位置する。3集落ともに平野の広がった場所にあるが、鈴内は地区内に若山川支流最長の鈴内川が流れている。明治22（1889）年より現在まで、3集落ともに、現在の名称を大字名・町名として用いてきた。より具体的には、それぞれ東若山村に属したのち、明治41（1908）年から若山村の大字となり、昭和29（1954）年から珠洲市の町名となり、若山町を冠している（『角川日本地名大辞典 17 石川県』）。

本実習調査はこの3集落を対象に、そこでの住民の生活の変化と現況の把握のため、文献・資料・各種センサスの閲覧のほか、集落での聞き取りと観察を実施した（表1）。金沢大学文化人類学研究室のこれまでの調査実習と同様に、2011年8月17日から24日までの8日間にかけておこなった集落における本調査では、参加学生はとくに自分の調査テーマを決めず、地域の生活の全体について幅広く聞き取りしてゆく方法をもちいた。本調査の終りの段階ではじめて各学生にそれぞれ関心をもったテーマを挙げさせ、以後はそれぞれのテーマにもとづいた補充調査を学生各自が随時おこなった（調査日程については本書「おわりに」を参照のこと）。本報告書はそうした

学生各自の関心にもとづくテーマから構成されているため、全体として対象とした地域での調査内容を網羅するかたちとはなっていないことをお断りしておく。導入部である本章では、調査対象の3集落の人口変化や世帯類型を概観する。

表1 2011年度金沢大学文化人類学調査実習での聞き取り実施状況

	出田	広栗	鈴内	計
男(人)	14	15	17	46
女(人)	14	10	6	30
計(人)	28	25	23	76
住民数(人)	314	126	209	649
聞き取り率(%)	8.9	19.8	11.0	11.7

(出所：実習参加学生による集計)

2. 三郷（出田、広栗、鈴内）の概観

今回調査対象とした珠洲市若山町の3集落は、能登半島の先端を占める珠洲市の中心街である飯田町から1～2キロ内陸にはいった場所に位置する。海岸沿いには、能登半島先端の海岸沿いに県道12号線が走り、旧飯田駅から北へは国道249号線が外浦の大谷町へと続いている。若山町は飯田町に隣接し、調査対象の出田、広栗、鈴内の3集落は国道249号線をはさんだ両側に位置している。

穴水からの国鉄能登線は昭和39(1964)年には蛸島まで開通したが、のちに第三セクターへ移行されて昭和63(1988)年にのと鉄道能登線となったが、それも平成17(2005)年に廃止になった。出田集落のすぐ南にあった飯田駅は現在「道の駅 すずなり」となり、珠洲市観光協会の拠点となっている。

3集落ともに、水田耕作を中心とした農業が主たる生業であったが、若い世代には他所へ出て働く人や飯田などへ通う勤め人が多くなっている。いきおい農業における高齢者の割合が高く、少数の人々が不耕田の「請け負い」耕作をおこなっているほか、近年では集落営農の動きもさかんである(第5、6章を参照)。

表2は、調査対象の3集落の世帯数と人口の変化を示したものである。いずれも昭和40(1965)年と現在を比べると、(出田団地をのぞき)世帯数・人口ともに減少しているが、世帯数がわずかな減少であるのに比して、人口の減少は大きい。1965年と2010年を比べると、三郷地区の一世帯当たりの成員数は4.0人から3.0人へと減少している。以下で見るとおり、人口の大きな減少は、とくに若い世代の人口減少によるものである。

表2 三郷地区の世帯数と人口の変化（上段：世帯数〔戸〕、下段：人口〔人〕）

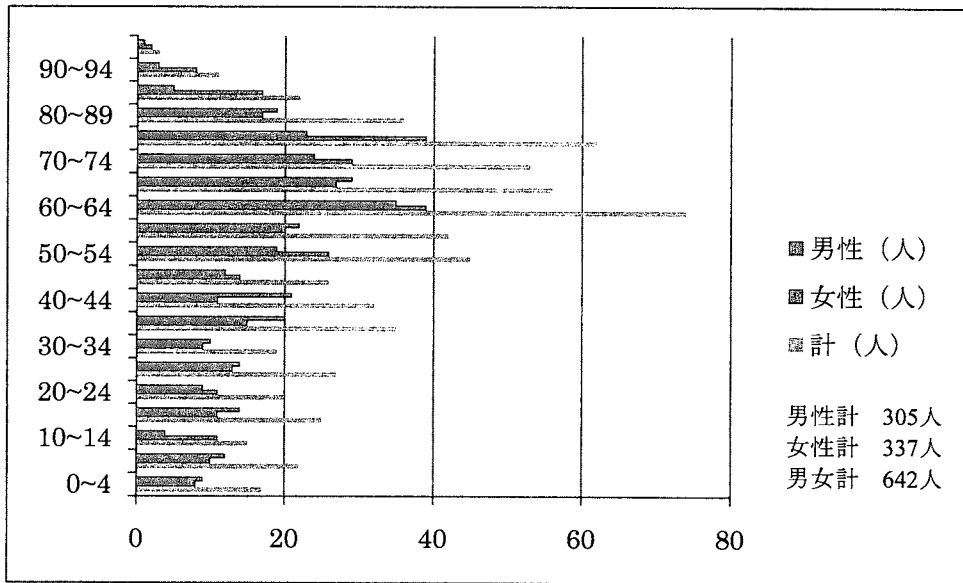
	1873 M6	1889 M22	1965 S40	1970 S45	1975 S50	1980 S55	1985 S60	1990 H02	1995 H07	2000 H12	2005 H17	2011 H23
出田	78	82	111	119	166	108	124	124	112	112	108	110
	-	451	474	473	608	441	483	435	398	357	314	308
出田団地	-	-	-	-	-	53	60	65	61	51	55	-
	-	-	-	-	-	145	142	134	118	98	116	-
広栗	54	55	49	50	55	48	48	48	44	45	46	49
	-	303	216	202	202	204	187	166	140	132	138	124
鈴内	74	76	85	79	77	77	76	72	69	67	69	69
	-	391	297	359	338	315	290	260	236	229	217	210
合計（団地を 除く）	206	213	245	248	298	233	248	244	225	224	223	228
	-	1145	987	1034	1148	960	960	861	774	718	669	642
合計	206	213	245	248	298	286	308	309	286	275	278	228
	-	1145	987	1034	1148	1105	1102	995	892	816	785	642

出所：1873 と 1889 年の数字は『角川地名大辞典 17 石川県』より、1965-2005 年は各年の『市町地区別人口及び世帯の概数』（石川県県民文化局）から作成。2011 年分は 2011 年 5 月 31 日付けの住民票より集計。

表3 三郷地区の年齢別人口

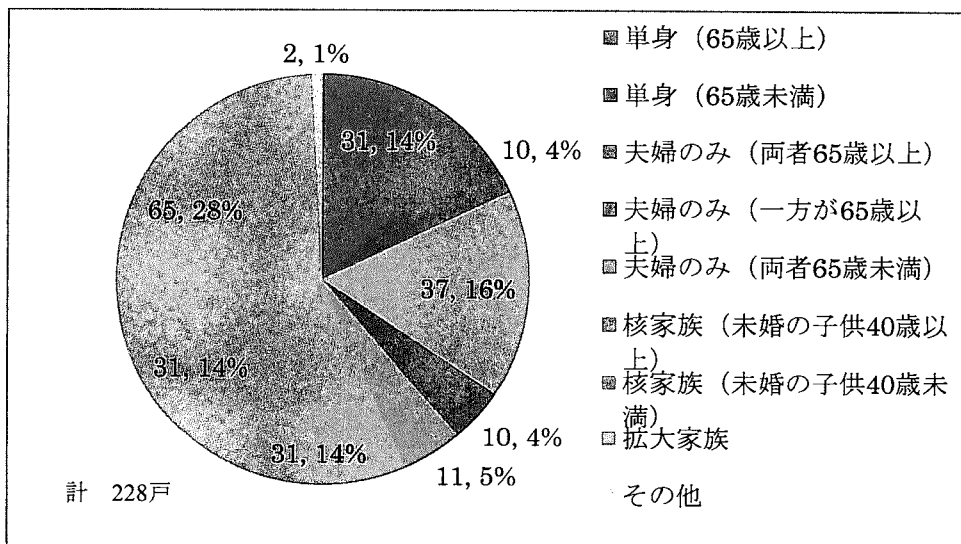
年齢(歳)	男性(人)	女性(人)	計(人)
0~4	9	8	17
5~9	12	10	22
10~14	4	11	15
15~19	14	11	25
20~24	9	11	20
25~29	14	13	27
30~34	10	9	19
35~39	20	15	35
40~44	21	11	32
45~49	12	14	26
50~54	19	26	45
55~59	22	20	42
60~64	35	39	74
65~69	29	27	56
70~74	24	29	53
75~79	23	39	62
80~89	19	17	36
85~89	5	17	22
90~94	3	8	11
95~99	1	2	3
合計	305	337	642

図1 三郷地区の年齢別人口（単位：人）



（出所：2011年5月31日付けの住民票より集計）

図2 三郷地区の世帯形態（単位：戸，%）



（出所：2011年5月31日付けの住民票より集計）

表3と図1は、2011年5月31日付けの住民台帳より集計した、三郷地区の年齢性別別人口構成である。年齢別では60～80歳代の層が多く、満65歳以上の高齢者数は243人で、全人口の37.9%を占める。

世帯構成を見ると、3世帯以上が同居する拡大家族が最も多く28%を占めるが、65歳以上の単身世帯および両者65歳以上の夫婦世帯を合わせると拡大家族と同程度（30%）あり、高齢者のみ世帯の多さが目を引く。

2.1 出田

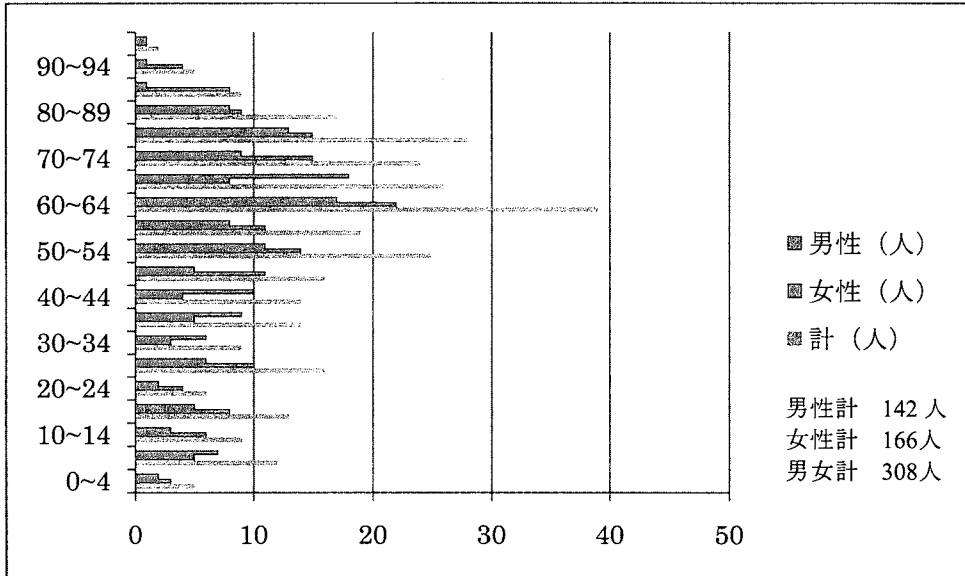
出田は1965年から現在まで世帯数はほぼ横ばいの一方、人口減少が大きく、一世帯当たりの成員数は4.3人（1965年）から2.8人（2011年）に減少した（表1）。

表4 出田の年齢別人口

年齢(歳)	男性(人)	女性(人)	計(人)
0-4	2	3	5
5-9	7	5	12
10-14	3	6	9
15-19	5	8	13
20-24	2	4	6
25-29	6	10	16
30-34	6	3	9
35-39	9	5	14
40-44	10	4	14
45-49	5	11	16
50-54	11	14	25
55-59	8	11	19
60-64	17	22	39
65-69	18	8	26
70-74	9	15	24
75-79	13	15	28
80-89	8	9	17
85-89	1	8	9
90-94	1	4	5
95-99	1	1	2
合計	142	166	308

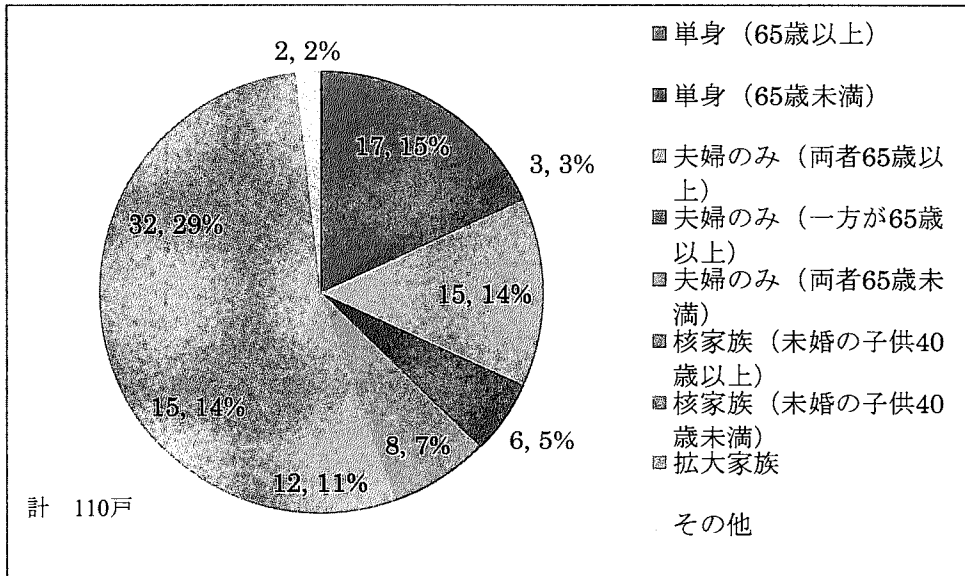
（出所：2011年5月31日付けの住民票より集計）

図3 出田の年齢性別別人口構成



(出所：2011年5月31日付けの住民票より集計)

図4 出田の世帯形態 (単位：戸，%)



(出所：2011年5月31日付けの住民票より集計)

出田の年齢性別別人口構成を見ると、年齢別では50～70歳代の層が多く、三郷地区全体よりも最多年齢層がやや下に位置する。満65歳以上の高齢者数は111人で、全体の36.0%を占める。

世帯構成では、拡大家族が最も多い(32%) 一方、65歳以上の単身世帯および両者65歳以上の夫婦世帯の合計が拡大家族と同程度(32%)あり、高齢者のみ世帯が多い。

2.2 広栗

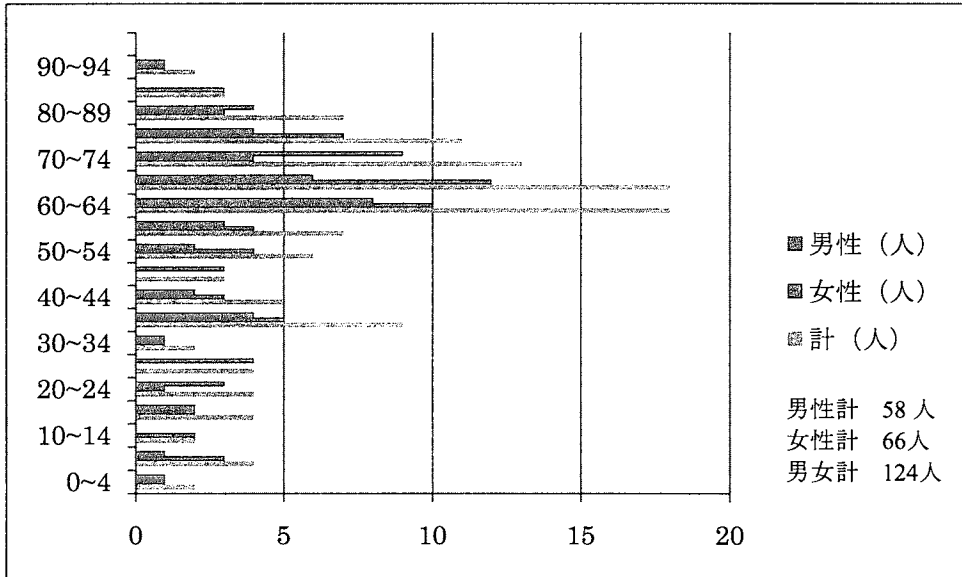
広栗は1965年から現在まで世帯数はほぼ一定して減っている一方、人口は1970年代に一時増加を見せた後で減少に転じている。一世帯当たりの成員数は1965年時でも少ないが(3.5人)、2011年には3.0人まで減っている(表1)。

表5 広栗の年齢別人口

年齢(歳)	男性(人)	女性(人)	計(人)
0～4	1	1	2
5～9	1	3	4
10～14	0	2	2
15～19	2	2	4
20～24	3	1	4
25～29	4	0	4
30～34	1	1	2
35～39	4	5	9
40～44	2	3	5
45～49	3	0	3
50～54	2	4	6
55～59	3	4	7
60～64	8	10	18
65～69	6	12	18
70～74	9	4	13
75～79	4	7	11
80～89	4	3	7
85～89	0	3	3
90～94	1	1	2
95～99	0	0	0
合計	58	66	124

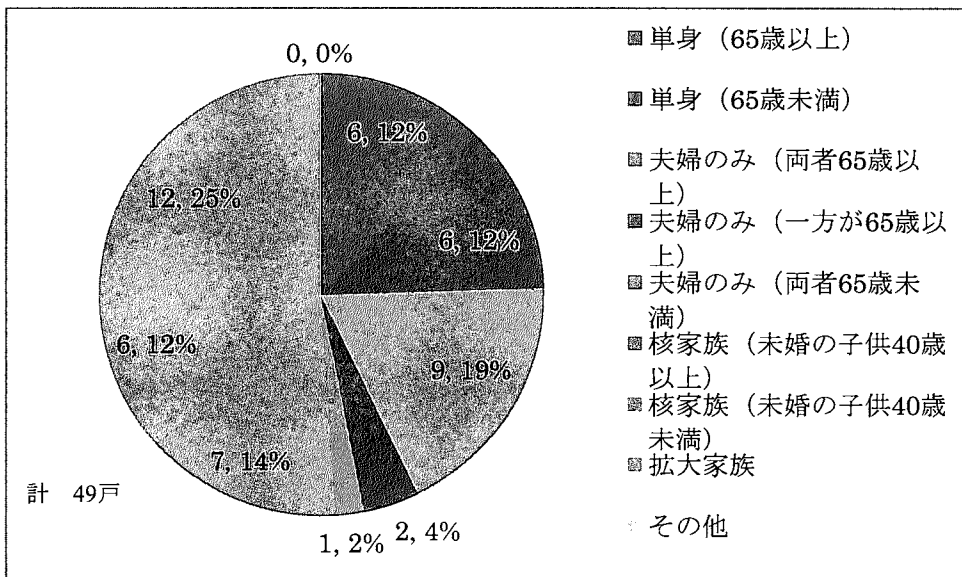
(出所：2011年5月31日付けの住民票より集計)

図5 広栗の年齢性別別人口構成



(出所：2011 年 5 月 31 日付けの住民票より集計)

図6 広栗の世帯形態 (単位：戸, %)



(出所：2011 年 5 月 31 日付けの住民票より集計)

広栗の年齢性別別人口構成を見ると、年齢別では60～70歳代の層が最も多い。満65歳以上の高齢者の数と割合は54人、43.6%と、三郷全体から見ても高率である。

世帯構成では、拡大家族が三郷全体より少ない(12%)一方で、高齢者のみ世帯(65歳以上の単身世帯および両者65歳以上の夫婦世帯)が31%を占めている。

2.3 鈴内

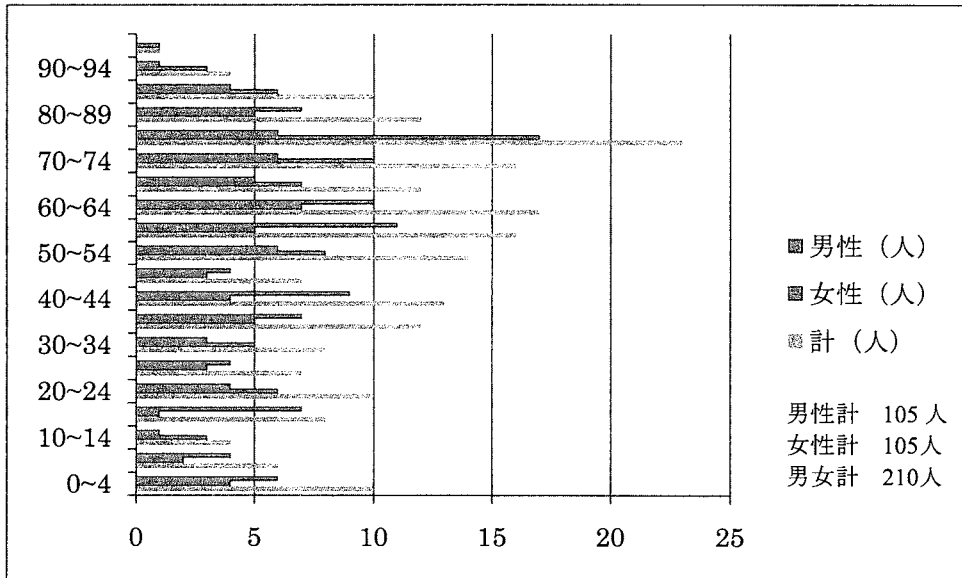
鈴内も1965年から現在まで世帯数はほぼ横ばいの方、人口減少が大きく、一世帯当たりの成員数は4.4人(1965年)から2.5人(2011年)に大きく減少した(表1)。

表6 鈴内の年齢別人口

年齢(歳)	男性(人)	女性(人)	計(人)
0-4	6	4	10
5-9	4	2	6
10-14	1	3	4
15-19	7	1	8
20-24	4	6	10
25-29	4	3	7
30-34	3	5	8
35-39	7	5	12
40-44	9	4	13
45-49	4	3	7
50-54	6	8	14
55-59	11	5	16
60-64	10	7	17
65-69	5	7	12
70-74	6	10	16
75-79	6	17	23
80-89	7	5	12
85-89	4	6	10
90-94	1	3	4
95-99	0	1	1
	105	105	210

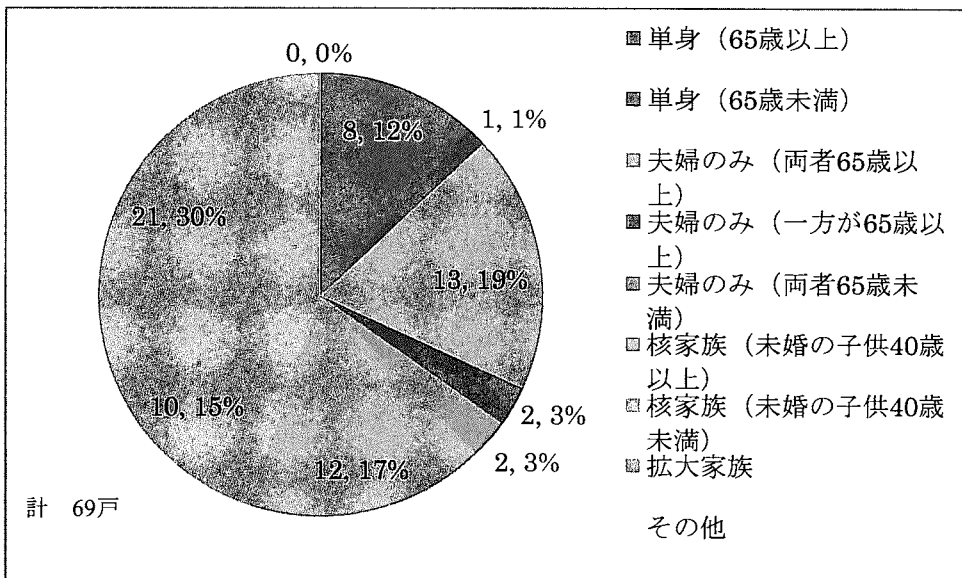
(出所：2011年5月31日付けの住民票より集計)

図7 鈴内の年齢性別別人口構成



(出所：2011年5月31日付けの住民票より集計)

図8 鈴内の世帯形態 (単位：戸，%)



(出所：2011年5月31日付けの住民票より集計)

鈴内は70歳代の人口が一番多いものの、0、20、30、40歳代の住民もそこそこいて、高齢者への人口集中は比較的に小さい。しかし満65歳以上の高齢者は78人、37.1%で、同様の高率である。

世帯構成では、拡大家族が最も多い（30%）が、65歳以上の単身世帯および両者65歳以上の夫婦世帯の合計が拡大家族と同程度（31%）で、高齢者のみ世帯が多いことが分かる。

3. おわりに

以上、三郷の3区（出田、鈴内、広栗）の概観を、各区の人口構成と世帯類型を中心に見てきた。三郷地区全体や各集落の特色は、以下に続く各章でさらに細かく見てゆくが、そのテーマは学生各自が興味を持った事柄を優先したため、この地区を語る際に重要な事柄がいくつか抜け落ちていることは言うまでもない。

短い本調査期間（7泊8日）とその後の散発的な補充調査で得られたデータは限られたものであり、お話をうかがう機会のなかった方も多い。なにより学生の実習ということで調べる側の未熟さは言うまでもなく、本報告書の記述にも分析にも不正確、不十分な点が多々あるものと自覚している。関係各位の忌憚のないご批判、ご叱正をお願いする次第である。

¹ 既刊の調査実習報告書の一覧は、巻末の「参考文献・参考資料」に掲げておいた。